

Live5

作曲講座

vol.4 ギターレコーディング

DVDビデオで一目瞭然!



M-SWIFT 松下昇平がブラジル女性ポータル曲を実際にLive5を使って制作している。

統合音楽ツールとしての完成度を格段に高め、音楽制作の中核をなすソフトへと進化した独ableton社のDAW「Live5」。「録音&編集」「MIDI打ち込み」「エフェクト&ミキシング」機能はもちろん、「VSTとReWireに対応」といった拡張性、スピーディな作業を可能にする「リアルタイム性の高い操作感」などなど、作曲/パフォーマンスに不可欠な要素をもれなく網羅している。付録DVDビデオでは実際に曲を作りながら「Live5」の機能を紹介しているので、ぜひご覧いただきたい。

ギターレコーディング

前回まででドラム、ベース、コードが完成し、ボーカルを含めた曲の主要な部分が揃った。今回はアコースティック・ギターの録音を行ない、曲の完成度を上げていく。

ギターなどの生楽器やボーカルなどは、オーディオ・トラックに録音する。ファイル・メニューから「挿入 オーディオトラックを挿入」で、録音をするための新たなオーディオ・トラックをつくり、前回MIDI録音したときと同じように、オーディオ・トラックの「アームボタン」と画面上部の「グローバル録音ボタン」を押した状態で、「再生ボタン」を押すことで録音がスタートする。メトロノームを流しながら録音を行えば演奏がしやすい。ビデオではロケーターを使った録音方法も紹介しているので、そちらも参考にしてください。ちなみに「Live5」は最高32bit/192kHz、内部処理64bitフローティングでのレコーディングが行なえ、非常にリアルに音が再現される。これは現在あるDAWの中で最高スペックとなっているので、生楽器や声の録音が多い場合、「Live5」を使うことで大きなアドバンテージを得られる。

どのような環境で録音を行なう際でも、生楽器を録音する場合、録音したものがほんの少し遅れてトラックに記録される。良いオーディオ・インターフェースを使えば聴感上ほとんど気にならないレベルの遅れしか生まれないが、録音環境が良くない場合、その遅れを修正するために「トラック・ディレイ」を使用する。これは各トラックの発音タイミングを調節する機能で、本格的に音楽制作を行なう場合に欠かせない。



写真1...「ギターレコーディング」を行なう「Live5」の録音性能は現存のDAWの中で最高レベルのものだ。

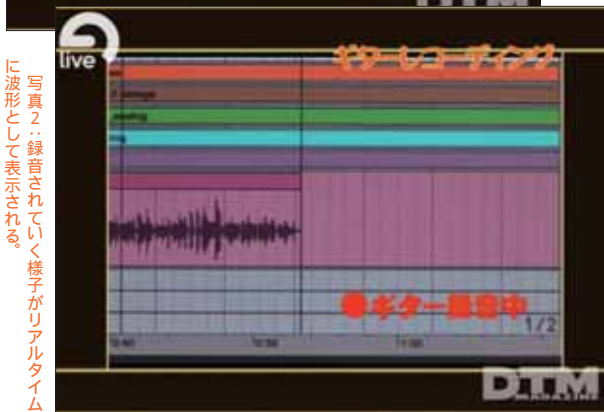


写真2...録音されていく様子がリアルタイムに波形として表示される。



写真3...「トラック・ディレイ」機能は、ギターなどの録音を行なう際に欠かせない機能だ。



連載予定

vol.1	Live5ってどんなソフト?	vol.4	ギターレコーディング
vol.2	ドラムの制作	vol.5	アレンジを詰める
vol.3	仮コード、ベース、歌入れ	vol.6	エフェクト/ミキシング



profile

M-SWIFT

松下昇平が率いるプロジェクト。ジャズ、ブラジリアン、アフリカ、キューバを通過したそのサウンドは、ディープ・ハウス、ブレイク・ビーツなどクラブ・フィールドのさまざまな音像を飲み込みながら、新たな領域へ発展している。現在、2ndシングル、1stアルバムを制作中。



ableton Live5

対応OS : Windows 2000 / XP、
Mac OSX 10.2以上・
10.4対応

価格 : オープンプライス
(市場予想価格 :
5万2,545円前後)

問い合わせ先 :
(株)ハイ・リゾリューション
www.h-resolution.com



実践的なオーディオ編集

録音後のギターのタイミング補正を行なう。まずはアレンジメント・ビュー上でギタートラックの波形を直接編集する方法を見てみよう。

ギターの出だしが少し突っ込み気味なので、最初の小節を切り取り、後ろにずらす。アレンジメント・ビューの編集を施したいトラックの波形を表示させ、切り取りたい部分を選択するとその部分が黄色く表示される。右クリックから“分割”で、選択部分がカット



写真4: アレンジメント・ビューでの編集は他のDAWの操作感に近いものだ。



写真5: 選択部分を分割するところ。ショートカットが表示されるので、よく使う機能は覚えやすい。

され、ドラッグ&ドロップで移動させられる。より緻密に場所を追い込みたい場合は、表示域を拡大させればよい。また、細かい範囲の修正を行なう際は、ファイル・メニューの“オプション”から“グリッドに吸着”のチェック・マークをはずしておこう。

これら一連の作業は、トラックを再生させながら行なえる。必要な部分をループ再生させると作業効率が良いだろう。

クリップ・ビューで高度な編集

先ほど、アレンジメント・ビューで行なった編集は、クリップ・ビューでも同様に行なえる。録音ファイルのどこから再生させるかを決めることで、タイミングの補正を行なえるのだ。また、このクリップ・ビューは他のDAWにはない「Live5」特有の機能で、高度なオーディオ編集を直感的かつスピーディに行なえる工夫が随所になされている。オーディオ素材の特定部分にのみボリューム、パン、トランスポーズ設定を行なったり、グルーブを変更したりできるので、積極的に音を作り込める。このあたりは実際に使えばすぐにマスターできるので、ぜひ挑戦していただきたい部分だ。

今回はJazzピアニストによる演奏を録音する。お楽しみに！



写真6: MIDIにも同様のクリップ・ビューがある。この機能の概念を理解すれば格段に高度な制作を行なえる。ぜひビデオで確かめて欲しい。